

私は時々関東方面に行きますが、東京に着いた時「ああ、ここ、大阪ちゃうなあ」、或いは地方から大阪に戻って来た時「ああ、大阪に戻って来たわあ」と最初に思う瞬間は、エスカレーターに乗る時です。大阪では右立ち。左は通路として追い抜いて行けるように右側に立つ。だけど、大阪以外では左立ち。だから、いつもと同じように立っていたら迷惑です。こんな狭い日本の中でも、大阪以外の所に行ったら、そんなに習慣が違うのかと驚くのですが、これが外国だったら、もっと違いが大きくなりますね。

『フランス人は10着しか服を持たない』という本が去年ベストセラーになって、私も本屋で読みました。ジェニファー・スコットというパリに留学したアメリカの女子大生。彼女のホームステイ先は、普通の戸建てではなくてお城。元貴族の子孫。マダムはいかにも貴族然とした方。色々お世話してくれて、風邪をひいてともしんどい時、コンソメスープを作って看病してくれ、熱を測った方がいいと体温計を渡されました。日本では脇に挟みます。アメリカでは口にくわえる。フランスは肛門の中に突っ込む。彼女がいきなり口にくわえたもんだから、マダムが「ノンノンノン! くわえちゃダメ! それ、新品ちゃうし!」みたいな。他人の肛門の中にいれた物。拭いてるだろうけど。それを知った時「プーッ!」吹いた。西洋人でも国が違ったらそんなに違う。

だったら、神様と人間の違いはもっと大きいと思いますよ。作者と被造物である人間の発想は全然違う。

**イザヤ 55:9 天が地よりも高いように、…わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。**

神様の考えは、人間が考える事とは全然違うという事。

だから聖書を読んだ時、「私が前から考えていた事と全部一緒だわ」と言う人がいたら、その人は神です。「なんで聖書って、読んでも読んでも分からないんだろう。」それは、聖書は神の言葉で、読者であるあなたが人にすぎないから。

何か良い事があったら「日頃の行いが良いからだ。」冗談でそう言っているかもしれませんが、これは輪廻思想・因果応報の思想です。因果応報の思想は「現世の前に前世がある。現世で次々に悪い事が起こるのは、前世で相当悪い事を積んできたからだ。」

私は今年、自転車を盗まれました。学生時代からのを合計すると、軽く10台越えています。

那須さんは私の事をよく知っていて「15台くらいちゃうか?」と。大学時代、盗まれまくった。鍵かけてないのが最大の理由なんですけど…。

なぜ、私の自転車ばかり10台も15台も盗まれたのか? それは、前世で私が自転車窃盗の常習犯だったから。「そうか!」と言わないで下さいよ。そうじゃないんだから。でも、そう解釈するわけ。そうする事によって「人生って不平等に見えるけど、前のツケが回って来てるんやな。」

だから、不幸な人を助けたらダメなんです。不幸な人は、現世で十分不幸を味わう事によって、来世はちょっとマシなステージに立つ事ができるから。これは人間が考える典型的なものです。

イエス・キリストは、「**あなたがたの天の父はご自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからです。**」(マタイ 5:45)

自分の人生を振り返った時、私が蒔いてきた種に全くふさわしい結果ではなくて、「何でこんなに恵まれたんだろう?」という事がよくあります。

神様は私たちの造り主で、私たちを愛しておられ、恵み深く、気前がいいお方。なので、どんな人にも、人生を新しくやり直すチャンスがあるのです。

私は1週間ハワイにいて、2日前に戻って来ました。まだ時差ボケというか、眠いような冴えてるような、よく分からない感じですが。その週は、アメリカの年間行事の中で非常に特別な週で感謝祭。感謝の日ではなくて感謝祭。お祭り。アメリカでは11月の第4木曜日は感謝祭・国の祝日と決まっています。

約400年前、イギリスで迫害されていた「ピルグリム・ファーザーズ」と呼ばれているクリスチャンたちが、イギリスからアメリカに移住しました。「思う存分神を信じる事ができる迫害のない新天地に行って、新しい生活を始めるんだ!」

ところが、イギリスから持参した穀物の種が、アメリカの土壌と気候に全く合わなくて、穀物が全然採れない。持っていた食料が底をつく。餓死者続出。このままだったら全滅という時、ネイティブ・アメリカンの人たちが助けてくれた。「こんな種では、この土地では無理!」彼らが与えてくれた種を蒔いて、翌年大豊作。それで、イギリスからのクリスチャンとネイティブ・アメリカンが感謝祭で共に祝い、喜び合い、次の年には、教会で神様を礼拝するという事が始まったのです。

アメリカには今50の州がありますが、ものすごく独立心が強い。感謝祭は州によって日にちがバラバラで、10月・11月中旬・11月末と、それぞれの州の知事が勝手に宣言して、「感謝する事はするけど、隣の州はよその国」みたいな形でした。それを同じ日に統一したのがリンカーン大統領です。

なぜリンカーンがそれをしたのか?彼の時代に南北戦争がありました。アメリカが北の州と南の州に分かれて、それぞれに大統領がいて、国民同士で殺し合い。アメリカは建国してから今日まで、小さなものも入れて200回戦争しているのですが、その中で最大の死者を出したのが南北戦争です。199の戦争の死者を全部足したよりも、南北戦争1回の死者の方が多い。

日本でも南北朝時代があったけど、国民同士で戦って、その傷がとてもひどかった。戦争後、その傷を癒すために、リンカーンは「11月第4木曜日、同じ日に祝おう!この日は、全面に散っている家族ができるだけ集まって、家族の日・和解の日・共に喜ぶ日・神に感謝する日にしよう!」

この時のリンカーンの演説を、ハワイのホームステイ先のホストが読んでくれました。分かったのは2割くらい…。でも情報を知っていたから「多分、そう言ってるんやろな」と思いながら聞いていたんですが、聖書的だなと思いました。

この分厚い聖書のメッセージをひと言でいうなら『和解のメッセージ』です。対立していた者が握手し、敵対していた者から憎しみが抜け去り、バラバラになっていた者が再会し、和解し、1つになっていく。和解のメッセージが聖書のメッセージ。

今日は、神と人との和解を果たしたイエス・キリストを紹介しているメッセージについて、一緒に考えましょう。

**Ⅱコリント 5:20 - 21** こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方にあつて神の義となるためです。

ここの神は創造主なる神様です。人間が作った神じゃなくて、人間を造って下さった方。あなたを愛し、あなたの人生に目的を持って、この世界にあなたを造って下さった方。あなたの魂の親である方を聖書は創造主と言います。

私たちが造った方は、私たち以外のものも造りましたよ。宇宙も自然界も、全てのものを。私はハワイに行っても海を見るという事が殆どなくて、座ってずっと誰かと話している。「それは、ハワイに来た事になれへんから」と、夕焼けを見に、お弁当を持って、ビーチにピクニックに行ったら日没になったという事が何回もありました。結局、話するのが好きなんですね。人間が1番面白いと思いますわ。太陽もすごいし、自然もすごいけど、人間てね…。

私は1番嬉しいのは人間だし、1番恐いのも人間です。高いのも速いのも恐いけど、人間ほど恐ろしいものはない。だけど、どんな自然界よりも、人間ほど私を慰める言葉を語ってくれた被造物はないです。

ところで、神は私たちが最高傑作として造って下さったと言うけど、その割には人間、ムチャクチャしませんか?「これ、ホンマに最高傑作なん?!」傷つけたり、陰口言ったり、他人の自尊心を踏みにじったり、ガッカリさせるような事をしでかしたり、次から次へと色んな事が起こるのはどうしてだろうか? 聖書は「人が罪人になり果てたからだ」と言うのです。

ハワイにいた時、ニュースが1つ飛び込んで来ました。「2025年、大阪万博 決定」。ここには千里から来ている人もいますね。私が小学生の時、大阪万国博覧会・エキスポ70。若い人は「?」だけど、皆さんは分かる方ばかりで。「月の石」を見るために2時間。見るのは5秒くらい。「止まらないで!」とか言われて。スミソニアン博物館に行ったら、月の石にさわられるそうです。隣のエキスポランドにはダイダラザウルスというジェットコースターが1から5まであって、4と5が1番スリル満点。だけど「乗れなかった」というのが、未だに私の深い悲しみというか、「乗りたいかったー!」

1970年大阪万博の時、主題歌を歌った演歌歌手の三波春夫(みなみ はるお)さん。「こんにちは〜こんにちは〜♪」という歌。「三波春夫でございます!」彼には、全てのステージで必ず言う決まり文句がありました。「お客様は神様です!」この言葉ほど、誤解されて伝わっている言葉はないと言われていました。これを聞いた人は「俺、金払っているから客や。客は神やな! 神なら何してもいいだろ!」

ある青年が客席から、テーブルじゃなくてトイレトペーパーを投げた。それが、歌っている最中の三波春夫さんに当たったのです。彼は歌うのをやめ、バックのオーケストラに「ちょっと止めて下さい。」そして客席に振り返り「無礼者!」。投げつけた青年は固まってしまった。「お客様は神様ですって言ったじゃない。」

三波春夫が言った意味は、「私のお客様は神様であって人間じゃない。私は芸能の神に自分の歌をお献げしている。それを第三者の人間の皆さんに聞いて頂くのは結構だが、私にとってのお客様は、客席にいるあなたたちではなく神様だ。」

ところがいつの間にか「お金を払っている私が神様だ。私はお客だから“お客様は神様です”と勘違い。神でもない人間が自分を神だと思って、何を言っても・何をやっても・どこに行くのも許されるというように、自己中心の生き方をする事を聖書は罪と言います。神でもない者が神の立場に踊り上がって、のぼせ上がって、神であるかのように振る舞う事を聖書は罪だと言うのです。

ついでに言うと、神様なら何をやっても許される・何でもできるというのは、聖書が語っている神概念ではありません。実は、神にはできない事があるんです。

神だからできない事、神が神であるがゆえにできない事。それは、ご自分の本性に反する事。神は正義の神なので、罪を犯す事ができない。神は約束の神なので、約束を破る事ができない。神は真実な神なので、裏切る事ができない。神は恵み深い方なので、たとえ人が罪人になり果てても見捨てる事ができない。そして、神は義なる方なので、罪を罰せずにはおけないのです。神は何でもできるという発想そのものが、実に人間的なものです。

創造主なる神から離れて、神を無視して、神ではない人間が自己中心になって、「私が、私が」というエゴの衝突が、この世界の混乱です。でも同時に、この程度の墮落で収まっているのは、神様が日夜働いて下さっているお陰ではないかと考えます。神様が人間に対して一切手を差し伸べなかったら、世の中の混乱はこんな甘いレベルで終わってないと思いますよ。もっと凄まじい殺人や犯罪…、人類歴史はもっと早くに終わっているんじゃないですか？

今読んでいるエッセイは『母さんがどんなに僕を嫌いでも』。これ、心臓をギュッとつかまれるような本です。ゲイの漫画家である歌川たいじさん。お母さんから、もう凄まじい虐待を受けて、このままだったら殺されると思って17歳で家出しました。そこに至るまで、よう生きてたなという人生ですが、46歳になって自分の人生を振り返り、この漫画付きエッセイを書きます。

「こんなに辛かったんだと言いたくて書いたんじゃない。虐待の只中にいる時は、俺が生まれてきた事は間違いじゃないのか？死にたい死にたいと思っていたけど、46歳まで生きて、振り返ったら良い事もあった。良い事と悪い事の収支を計算したら黒字だ。少年時代は真っ赤な赤字。何で生まれたんだ？と思っていたけど、今振り返ってみると黒字。」

なぜ黒字だと言えるのか？一巻の終わりという時に、不思議と恵みの人が登場するのです。例えば、離婚したお父さんの工場に勤務していたおばあちゃん。歌川さんとは何の血の繋がりもないのですが、虐められているのを見て、愛して言葉をかけて慰めた。

彼は言います。「人間は受け取る情報によって、なんぼでも変わるよ」。彼によると「虐めをひと言で言うなら“自分はゴミだ”という洗脳。その洗脳の呪縛を解くためには、別の価値観・命の言葉が必要だ。」命の言葉を語ってくれたのがこのおばあちゃんですが、家出したので離れ離れになった。そうしたら、また「えっ!」というような人が現れる。

カメラで手前にあるものにピントを合わせると、背景になるものはボケますね。背景にピントを合わせると、前に立っている人がボケる。何に焦点を絞るかによって見え方が違います。「辛かった!イヤな事ばかりだった!」というところに焦点を当てると、人生は只々辛いだけの、我慢の期間であったかもしれないけど、キラッと光るような出会いがありませんでしたか？私は振り返ると、そこそこに、あちこちに、担任の先生・近所のおばちゃん・バイト先の先輩・この集会のクリスチャンたちに助けて頂いたなあと思います。

神様は人間が罪だらけになったとしても、何らかの形で人生に介入している方です。見捨てられている人なんて1人もいません。

**Ⅱコリント 5:20** こういうわけで、神が私たち（クリスチャン）を通して勤めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。

肉眼で神を見た事がなくても、目に見えるクリスチャンの証し・説明・色々な言葉を通して「神様ってそんな方なんですか。神様は私を愛して下さっているんですか」と知る事ができたら幸いだと思います。私は、クリスチャンを通してキリストの福音を聞く事ができる、そんな役割をさせて頂けたらいいなあと思って、この集会をしています。

**Ⅱコリント 5:18** これらのことはすべて、神から出ています。神は、キリストによって私たちをご自分と和解させ、また、和解の務めを私たちに与えてくださいました。

先程「私たちは創造主によって造られた」と言いましたが、人間は大なり小なり「お客様は神様です→お客様は私です→すなわち私は神様です」のような価値観で、真の神様から離れて罪の生き方をしています。

それで「神様と罪人を和解させるために、神様が送って下さった方がキリストです。キリストは神と人とを和解させる仲介者です。キリストはいかなる罪人をも、命のルーツである神のところに持って行って結び付け、関係を回復させる事ができるんですよ」と、ここで説明しているのです。

この20年ほどの間に、聖書以外に世界で一番売れた本は何でしょう?「(\*会衆から)ワンピース。」ありがとうございます。そうやって参加して下さる方がいると励みになります。あれは本というより、アニメというか漫画ですよ。字の本で、しかもワンピース以上に売れた本。『ハリーポッター』。

念のためにお伺いしますが、『ハリーポッター』読んだと言う方、手を挙げて頂けますか? うわっ! ショック! 一人もいない…。ほんま? 話しが成り立たないんですけど。皆さんが読んでるという前提で準備したのでね、非常に困ってます。では、皆さんのお子さんという事にしましょう。お子さんでこれを読んでたという方は? あ、6人…。まあ、いいですよ。人生、色々な事あるという1つの見本みたいなものです。

この集団の中では読んでる方はいないんですが、一般的には4億5千万冊以上売れて、今でも部数を増やしているという、イギリスで書かれた子供向けのファンタジーの本。4億5千万冊以上。なぜそんなにたくさん売れているのか? 翻訳されている言語が世界73か国以上だから。大ファンのギリシャ語学者がいて、「ギリシャ語に」と古代ギリシャ語に翻訳しました。誰が読むねん? みたいな。

この本を書いたのはJK ローリングという女性です。今、彼女の資産はエリザベス女王を抜いて、イギリスで最もお金持ちの女性の1人。どこの国でも、この本を出したら爆発的に売れる。厚さ5センチある分厚い本。字も大きいけど。それが全8巻。映画にもなりました。

ところで、日本語に翻訳したのは松岡佑子(まつおか ゆうこ)さんで同時通訳者でした。ご主人がたった1人で出版社を経営していて、社長兼お茶くみ兼コピー係。自分以外に社員は誰もいません。静かな山の会社と書いて「静山社」という出版社をやっていたけど、出す本出す本、売れない。苦労でストレスで肺癌になって「君には同時通訳という立派なスキルがあるから、こんな会社、引き継ごうなんて思わなくていい。1番得意な事をやって生きてくれ」と遺言して亡くなりました。

「夫は文字の事業を通して、何か大きな事をしたいと願っていた。その志を形にして辞めたい」と思って、会社経営とかした事なのに、マンションの一室でやるんです。自分は通訳ができるから翻訳がいいんじゃないかと。

ある時、通訳の仕事でイギリスに行き、古くからの友人の家に遊びに行くと、今イギリスで一番売れている本を聞いたら「それは、これよ!」と。ハリーポッター。「大人から子供までみんな読んで!」でも分厚いし、表紙が気色悪かったそうです。「こんなん、読むのイヤやなあ」と思ったけど、「騙されたと思って読んでみなさいよ」と渡されて。そしたら、ホテルでページを繰る指が止らなくて、一晩で全部読んだ。英語ですよ、これ。

一晩で全部読んでしまって、翌日にはイギリスの出版社を介して JK ローリングに連絡。「うちの会社で、是非出版させて下さい!」うちの会社って、社員1人しかいてない。

その時既に、日本の超大手出版社3社が名乗りを上げていました。「私どもは、翻訳事業はもう70年以上続けております。資本金も多いので、初版本からたくさん刷る事ができます。是非、弊社にお任せ下さい」とやり手のマネージャーが直接イギリスまでやって来て。彼女の会社は1番後から入ったし、資本金あらへん。絶対的に不利で、採用されるはずがないのですが、ところがチャンスがあったんです。

JK ローリングは人間嫌い。なので小説は書くけど、契約に関する仕事は、代理人で古くからの親友のAさんに全部丸投げ。「契約関係や事務手続き等は全部Aさんがやって下さい。私は翻訳者とは直接面会しません。」だから誰を選ぶかは、ローリングではなくて親友のAさん。Aさんが松岡さんを含む4人と面接した結果「マツオカがいい。」

今まで翻訳の経験は全くないのに、なぜ松岡さんかという2つの理由がありました。

まず、彼女が持っていたハリーポッターのページが外れかけていた。つまり、1回読んで終わりじゃなく、毎日毎日繰り返し読んでいた内に、ボロボロになって落丁しかかって。熱心な読者としてのファンであるという事。

もう1つは、彼女が未亡人である事。JK ローリングは、これが大ヒットになるまでシングルマザーです。妊娠が分かった時に離婚。それで鬱病になって、いつも自殺を考えている人でした。本当にひどい目に遭って、苦しみの中で書いた小説だから、苦しみの中で戦っている女性が翻訳するのがいい。

それで選ばれたのですが、何度も言うように、彼女は翻訳本を出した事がない。同時通訳と、実際に文章にするというのは別だと思えますよ。実績も経験も全くない・資本金も全然ない・聞いた事もない・全社員は社長1人の会社が、大手を全部押しつけて、ローリングはそれでOK。「マツオカという人にやらせて。」

どうしてそうなったのか? Aさんが「この人いいです」と言ったら全面的に信じるのです。直接会わなくても、Aさんが推薦する人なら全面的に受け入れる。Aさんの言う事は絶対的に信用している。Aさんの信用力で、彼女は抜擢されたのです。

なぜローリングはAさんの言う事だったら信用するのかというと、Aさんは今まで彼女をガッカリさせた事が1回もないからだそうです。「この人に任せといたら大丈夫!」という人が、「マツオカが1番だと思う」と言ったらそれでいい。会社の規模は関係ない。「それよりもあなたの推薦の方が大事。」

松岡さんが相談に乗ってもらっていた人が「初版本27,000冊、多いけどやってみますか?」

松岡さんは「私は3万冊でやりたい。もし売れ残ったら、マンションの家財道具、全部外に出して引き取るから。一か八か、これに勝負賭けたい。」それで3万冊刷るのですが、ひと月で23万部売れました。今、静山社は押しも押されもしません。これから新しい本を一切出さなくても、これだけで食っていける。彼女は今会長で、社員がたくさんいます。

ところが、全8巻で1年に1巻ずつ出るので、翻訳出版するにつれて、ちょっと問題が出て来ました。松岡さんの訳の中に誤訳が多いんですって。熱烈なファンは英文の原書を取り寄せて読む。そしたら「ここ違う。ここも変な訳や。こんなん、あかんやん!」そういう人いますよね。今インターネットで調べたら「松岡さんの致命的翻訳」というサイトがあるんですよ。

それがローリングの耳に入るけど、意にも介さない。Aさんが良いと言ったら何の迷いもない。Aさんへの信頼の深さ・大きさが、そのまま松岡さんの財産となって、未だに訂正されずに売られている。Aさんという仲介者の執り成しのゆえに・信用のゆえに・推薦のゆえに、松岡さんは間違いもあるけれど、作者に全面的に受け入れられているのです。それだけでなく、翻訳者73人の中でローリングと会ったのは2人しかいないけど、その内の1人。それは、Aさんが「一度会われたらどう?」って推薦したから。偉大な仲介者に気に入られたら百人力。千人力。

神様はローリングのような人間嫌いではありません。人間を愛している方・赦したい方・人間の罪を帳消しにしたい方。なぜなら、罪を持ったまま死んだら永遠の地獄に行くからです。神様はそんな事を望んでおられません。何とかして私たちの罪を赦したい。その罪の赦しを与えるために、イエス・キリストという方を遣わして下さったのです。

そしてイエス・キリストが、彼を救い主として信じる私たち一人ひとりを「神よ、この人の罪を全部赦して受け入れて下さい」と推薦して下さい。キリストのその推薦を、神は全面的に受け入れます。なぜですか? ローリングがAさんを全面的に信用していたのは、Aさんが絶対に失望させなかったから。同じように、神様はイエス・キリストによってガッカリさせられたという事が1回もない。

キリストは神ご自身の意を汲んで、**Ⅱコリント5:21「神は、罪を知らない方（イエス・キリスト）を私たちのために罪とされました。」**

キリストはただの善人ではなく、罪を経験として知らない方です。罪がない方。心にも・行いにも・言葉にも、罪と関係あるものが一切ない方。普通の人じゃない。神なのに人となられた罪を知らないお方。

「**罪を知らない方（イエス・キリスト）を私たちのために罪とされました**」とは、キリストが罪そのものになったという意味ではありません。「**罪とされました**」は、「罪の清めを成し遂げるための献げものとなりました」という意味です。

十字架にかかっている時も、キリストは罪人ではありません。神の前に捨てられている瞬間でも、キリストは罪人ではないのです。「**私たちの罪を償うための犠牲のいけにえとされました**」という事。

なぜ、そのようにして下さったのか?

**Ⅱコリント5:21 それは、私たちがこの方において神の義となるためです。**

「義」には2つの意味があります。

①「正義」の義；横田めぐみさんが北朝鮮に拉致され、今年で41年です。お母さんの横田早紀江（よこた さきえ）さんはクリスチャンですね。41年間、よくぞ心折れずに、今まで支えられて来たものだという事で、ある新聞のインタビュアーが「よく、今まで倒れる事なく保たれてきましたね。」

彼女は「私を支えて来たものは、娘を取り戻したいという思いだけではありません。」娘をもう一度胸に抱きたいというのは、勿論大きいですね。でもそれだけでなく「私を支えているのは、罪に対する怒りです。娘だけではなく、北朝鮮の独裁者の命令で問答無用で引っ張って行かれ、拉致され、人生をめちゃくちゃに狂わされた。そんな事がずっと続いたままでいいのか!という、罪に対する怒り・義憤。正義が行われていないという事に対する憤り。これが私を支えて来たと思います。」

神様は義なる神なので、罪に対する憎しみがありません。その正義の神の前に、私たちは誰もそのままの姿では立てないのですが、「神は罪に対する憎しみの全てを、十字架の上のキリストに振り下ろして下さったのですよ」と聖書は語っているのです。

② 正しい関係；私たちはキリストの罪の償い・十字架の贖いのゆえに、神様と正しい関係に入る事が出来ます。それが出来たら人生は変わります。神様から離れていた時ですら、神は私たちを愛し、恵んでいて下さいました。でも、その恵みには限界があって、罪の上に無制限の恵みを与える事はできませんでした。その無制限の恵みを注ぐために、キリストを与えて下さったのです。

どんな人でも、イエス様を信じて受け入れるなら、キリストと共に歩む人生、たとえ死んでも永遠の命で、地獄ではなく天国に至る人生に変えられるのです。瞬時に。

**Ⅱコリント 5:20** こういうわけで、神が私たちを通して勧めておられるのですから、私たちはキリストに代わる使節なのです。私たちはキリストに代わって願います。神と和解させていただきなさい。

第3版の聖書では「**こういうわけで、神が私たちを通して懇願しておられるようです。**」

**懇願**は、神に使う言葉ではないですね。懇願は、困っている人が困っていない人にする態度。位の低い人が高い人に対して取る態度。絶体絶命のピンチの人が、助ける能力のある人に懇願するんです。

神様は誰よりも全知全能で、誰よりも高いところにおられて、全く困っておられない方でしょう。そのような方が、なぜ人間にお願いするんですか？ 救いというのは、これだけは、強制で与える事ができないからです。人間の自由意思に訴えて「ここに解決がありますよ。」

恐怖で脅してではなく、恵みと信頼関係に於いて、それを受け取る事ができるようにと、私たちに**懇願**するように願っておられる方が神です。

どうぞ、イエス様を信じて下さい。心からお勧めしたいと思います。

~~~~~  
\* 動画は YouTube で「**HCA 東住吉キリスト集会**」 ぜひ見て下さい。

\* ラジオ番組「**聖書と福音**」(15分) も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。

動画筆記 : Rumi